

新市の名称「白神市」について意見を交換

第9回協議会

最初に、能代市議会委員

が「新市名称はNPO法人、秋田県議会、青森県議会でも取り上げられ、地元では撤回の署名運動が始まっている状況である。能代市議会としては、白神市を再考すべきと考える。今後の運動によっては、合併の根幹を揺るがすことになるのではないかと決まったことではあるが、今一度、法定協として考え直すことはできないか。」と発言。これに対して、「公募された名称を協議会で協議し、最後に投票により決定してきた。投稿の大半は、白神市撤回、能代市復活であるようだ。面積の多寡ではない。」との意見や「これまで、いろいろな手続きを経て決めてきた。もし再考するならば、逆になぜ白神市

をやめたかという署名活動があつた場合どうするのか。変えるべきではない。」などの再考反対意見が続出。

豊澤会長は、「なぜ、地域外からこれだけ、いろいろな意見が出ているか。それを委員の皆さんに考えていただきたい。署名運動が始まっているが、これは能代市だけの問題ではないと思っている。合併の根幹に関わる問題。今後も意見を伺いたいと思っている。」と意見交換の継続に理解を求めました。

このほか、副会長である6町村長の見解を求める意見があり、一人ひとり発言しました。

佐藤八竜町長

新しいことを決めるときは、必ず、なにがしかの批判はある。なぜ、白神をつけるのが悪いのか、それが分からない。白神市をつけると、白神山に悪いことが起きるのか。白神をあまりに神格化しているのではないかと決めた名称に誇りを持って尊重すべきであると考えている。

丸岡二ツ井町長

任意協議会の段階から、すべてのことをオープンにし、隠しごとのない状態で進め、住民の意見を聞いてやってきた。世界遺産になって以来、行政、住民とも環境に配慮したまちづくりを努めてきている。名称はその結果であり、誇りに思ってもいい。これから、

世界遺産に恥じない生活、行政のあり方を追求し、実行していきたい。



石井山本町長

佐藤町長、丸岡町長が話したとおりと考えている。しかし、様々な世論もある。そういう人たちの理解を求めていくことも大切である。

工藤零丘町長

ある本で読んだけれども、かつてイギリスの宰相チャーチルが「民主主義というのは、最悪の政治形態である。手間がかかってなかなか進まない。ただし、過去

の政治形態よりは、ましである。それ以上の政治形態が出てくれば別だが、ないのであれば、これに従わせるを得ないだろう。」ということを言ったそうです。私もそう思います。

加藤八森町長

青秋林道のことで過去のことは変えられないし、事実は認める。ただ、それ以後、町のとつてきた施策を理解していただきたい。新しい地域をつくっていくということが、この合併の立ち上がる際の確認事項だつたはず。それにふさわしい名称をつけようということである。冷静に対応を。

芹田峰浜村長

正当な手続きで決めてきたのだから、粛々と進むべき。名称問題が合併に影響を及ぼすというけれども、むしろ、会長の進め方が今後、合併に影響を与えるのではないかと危惧している。



第10回協議会

始めに、琴丘町の大山委員が「もう少し推移を見守ったかどうかと思う。建設計画を示していけば、住民の方々の理解を得られるのではないかと。今が正念場と捉えている。合併そのものにひびが入らないようにならばいいかなければならない。」と発言。次に八森町の工藤委員は、「52項目全てについて協議を終えた段階で、新市名について考えをまとめては。」と合併協議を進めていくことを求めました。

能代市の深川委員は、「合併するならば、より良いま

ちづくりをしていくべき。広く意見を聞くため、反対している人たちの意見を聞く場を設けてもらいたい。」と白神市撤回運動を進める団体の意見を聞くよう発言しました。

八森町の加藤委員は、「新市名称に反対する団体のねらいがはっきりしていない。署名提出などの動きがあった時点で対応を議論すべき。協議会に呼んで話しを聞くという段階ではない。」と反論しました。

また、二ツ井町の安部委員は、「名称問題は、『冠を捨てる』という発言から端を発したものだ。今、様々な団体が反対活動をしている。会長の時間を貸してほしい旨の気持ちも分かるが、合併までの期限も差し迫っている。このままでは、協議に身が入らないのも当然。会長として毅然とした態度で臨んでほしい。」と協議の進行を求めました。

これらの意見に対して豊澤会長は、「いろいろなご意見をいただいた。共通しているのは、ぜひこの合併

を成功させたいという考え。いろいろな問題を1つの市の1つの町の問題と捉えずに、合併協議会全体の問題として捉えてほしい。皆さんの意見として共通しているのは、協定項目をひとつひとつしっかりと協議して決めていってほしいということだと自分は理解した。会長としては、民主主義というのは少数意見を聞くということも大切なことだと考えている。タイムリミットというものがあるということも理解している。」と述べました。

このほか、二ツ井町の安部委員が、「市長は、市議会の中で市民の意向調査を行うと発言された。意向調査はいつ頃か、お聞かせ願いたい。」と質問。豊澤会長は、「12月頃と考えている。」と回答。安部委員は、「12月に、もしも能代市民が合併しない方が多かった場合、万が一能代市が離脱した場合、残った6町村が、3月までに新たな合併協議を終えることは不可能。出来るだけ早く実施を。」と



早期の実施を求め、豊澤会長は、「仮定のことにはコメントできない。意向調査は、合併するための1つの手段と考えている。遅くとも12月までには、ということ。できるだけ早くやります。」と早期に実施する考えを述べました。また、安部委員は、「合併協議の進め方についても、できるだけ早く進めるようお願いいたします。議会への持ちかえりなどのないように、あらかじめ議会において相談してきてほしい。」と円滑な協議進行を求めました。

合併情報は

町では協議の進行状況を広報等でお知らせしています。また、不明な点について、電話等でご連絡いただければお答えします。各種資料は総務課にコーナーを設けて情報提供しています。能代山本市町村合併事務局のホームページでも各種の資料をリアルタイムで掲載しておりますので、こちらにもご利用ください。

担当課	問い合わせ先
総務課	●電話番号 73-2112
	●Eメールアドレス somu@town.futatsui.akita.jp
能代山本市町村合併協議会事務局	
●電話番号 89-1003 (代表)	
●ホームページ http://www.shirakami.or.jp/~gappei/index.htm	
●Eメールアドレス gappei@shirakami.or.jp	